

資料紹介

「少年少女 SF 小説全集の興亡」

国際子ども図書館資料情報課長

西尾 初紀

1. 幼年期の始まり（1950 年代後半～1960 年代前半）
ジャンル名の模索：冒険、空想、科学、“推理・探偵”ものとの同居
許容の背景：戦後復興と工業化、空想科学映画の隆盛
 2. “SF”登場（1960 年代後半）
日本での下地：邦人作家と日本 SF 作家クラブ
大衆化への発展展開：怪獣ブームとアポロ月面着陸
 3. 百花繚乱・ビッグバン（1970 年代）
出版社のドル箱企画：各社競合、続編・再刊
マネエリスム：“怪奇・恐怖”ブームとの同調
 4. 凋落への兆し（1980 年代）
売り出し方の模索：メディアミックス、他ジャンルとの再融合
 5. 失われた“冬”の時代（1990 年代）
新企画「0」の年月
 6. 2001 年復活への旅（21 世紀）
大もての“ファンタジー”、煙たがられる“SF”
過去の読者に向けて
未来の読者に向けて
- *. 世界の「宇宙戦争」

少年少女SF小説全集の興亡(別表)

